

上川から 北海道旭川農業高等学校生活科学科の 学習内容・取組についてご紹介します

旭川農業高校は4つの学科に分かれており、そのうち生活科学科は花き園芸などの生産・活用と園芸福祉等を学ぶ学科で、1年生から3年生まで122名（うち留学生1名）が在籍しています。

今回は、2年生の草花の授業を取材させていただきました。

草花の授業では、切り花や鉢花の栽培を学習・体験したり、フラワーアレンジの基礎を学びます。

この日はプリザーブドフラワー制作班、ドライフラワーの制作と学校玄関展示デザインを考える班に分かれて実習を行いました。

プリザーブドフラワー制作班は前回の授業で薬液につけてあった花を液から取り出して乾燥させる実習を行いました。その後、今後の授業で箱に花を敷き詰めて作るボックスフラワーを制作するため、その配色等のデザインを考えました。

今年は学校ほ場で栽培されているバラをはじめ、カーネーション・あじさいの加工をしているそうです。3年生が制作したプリザーブドフラワーのアレンジ作品は、農業高校実習生作品販売会で販売されます。通常販売されている商品よりも割安な事もあり非常に人気があるとのことでした。



ドライフラワー制作班は、まず加工をする花の収穫をしました。学校のほ場では、ドライフラワー用として千日紅など10種類ほどの花を栽培しています。

今回はこの他にトゲナス、スターチス、稲穂などの花材と、かごやガラスの器などの資材を活用した校内展示作品を制作するために、そのデザインを考えました。



その他、草花の授業では切り花、鉢花の栽培も行っています。栽培を行っている切り花の内、トルコギキョウ、ストックは生徒の手で収穫・調製を行い年2～3回市場出荷を行っています。鉢花は年に5回ほど即売会を行っており、毎回たくさんのお客さんで賑わっているそうです。

また、札幌で開催された花フェスタのガーデニング甲子園で5年連続大賞を受賞しているほか、高校生フラワーアレンジメントコンテストでは、北北海道大会で優勝し全国大会へ出場するなど、草花を活用した分野で幅広く活躍しています。

草花授業担当の斉藤先生のお話では、何もないところから作品のイメージを作り上げる力を身につけるために、授業の中で花器や鉢などの資材を活用したアレンジの実習を何度も行っているそうです。できあがった作品を生徒同士で評価し合うことで、他の人との感覚の違いを実感しながら自分の感覚を確認できるようにしているとのことでした。

【取材を終えて】

これまでの産地レポートでは、生産に係わる方をご紹介してきましたが、生産者の方や生花店の方から、花きの生産現場では後継者が不足しており今後の産地縮小を心配する声を多く聞くことから、若い方々が花きについてどのような勉強をされているのか知りたいと思い、今回農業高校へ取材をお願いしました。

生徒さんからは「小さな頃から花に触れる事が大好きなので、将来花に関わる仕事に就きたくて旭川農業高校に入学した。」とお話を聞くことができました。

一から物を作り上げる作業はとても難しい事だと思います。それでも生徒の皆さんは様々なアイデアを提案しながら、一つ一つの作業を自分たちで考えながら進めていて、その姿がとても印象的でした。

お忙しい中取材を受けてくださいました授業担当の斉藤先生をはじめ、生徒の皆さん、ありがとうございました。

(平成26年9月取材 上川総合振興局農務課)